

近畿学校保健学会通信

No. 32

昭和52年5月25日

第24回 近畿学校保健学会事務局

(〒657) 神戸市灘区鶴甲1丁目2番1号

神戸大学教養部保健体育学科内

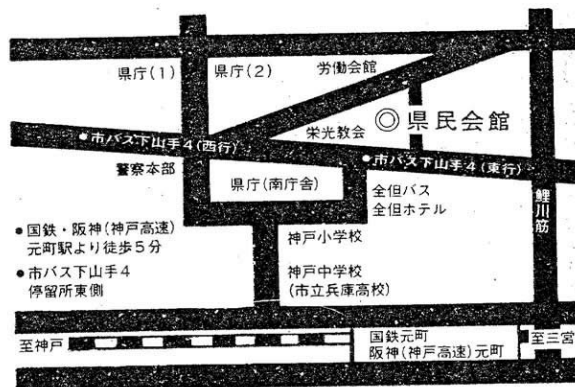
Tel 078-881-1212 内線(6306・6307)

第24回 近畿学校保健学会プログラム

日 時	昭和52年6月10日(金) 10:00～17:30					
会 場	兵庫県民会館9階ホール(兵庫県庁南側) 神戸市生田区下山手通4丁目57～4(Tel 078-321-2131)					
日 程	10.00	12.40	13.40	14.10	15.40	17.30
	受付	一般口演	昼食 評議員会	総 会	特別講演	シンポジウム

会 費 一般会員 1,000円, 評議員 1,500円, 参加資料代 500円

会場案内



◇ 第24回近畿学校保健学会に参加される方へ

1. 学会は学校保健に関心のある方は誰でも参加できます。
2. 近畿学校保健学会は近畿地区6府県の輪番で毎年1回開催されます。
会員として入会(年会費1,000円)されると、引続き「学会通信」をお送り致します。
3. 学会当日会場入口で、会員の受付を致します。
4. 学会員で、学会当日参加されず、学会講演集のみご希望される方は、お送り致しますので、郵送料を含めて¥500円を添えて学会事務局まで申込んで下さい。

◇ 発表される方へ

1. 一般口演の発表時間は8分、討議2分といたします。
2. 図、表はスライド(35mm判, 50×50mm標準マウント)または配布資料でお願いします。これらは口演予定の30分前までに講演会場入口の受付に提出して下さい。プロジェクターは1台用意いたします。

一 般 口 演 (10:00~12:40)

1. 保健教育に関する基礎的研究 ー第1報ー
日・米理科教科書における保健に関連する教材の比較検討
○南 哲, 大東 義徹(神戸大教育)
2. 都心部小学校に於ける戦後の保健統計学的考察
○和泉 正人(神戸・春日野小校医)
3. 大学新入生を対象とした保健調査
○白石 龍生, 阿部 洋子, 北浜 久美, 上林 久雄(大阪教育大)
4. 本校の健康教育と「あなたの体格と身体的活動力」判定結果の活用について
○杉谷 正弘(明石・大観小)
5. 「体格と身体的活動力」判定結果の活用とその効果
○横山 邦夫(兵庫・佐用中)
6. 某女子大学における検血の結果について ー食生活環境と貧血傾向ー
○山本 公弘(奈良女子大)
7. 桃山学院保健室における尿検査の実際とその事後処置について
○湯浅 実, 湯浅 高義, 寺岡 政代, 安達美恵子(大阪・桃山学院高)
8. 幹線道路沿線の児童の発育に関する調査研究 ー第1報ー
○大橋 郁代(西宮・用海小), 川上 千寿(西宮・今津小)
今出 悦子(西宮市教委), 横尾 能範(神戸大教育)
9. マウスの自発活動リズムに及ぼす騒音の影響について
○横尾 能範, 佐守 信男(神戸大教育)
10. 中学生における運動部活動と身体発育についての一考察
○中井 一彦(大阪柴島高), 山岡 誠一(京都教育大)
- ~~11. 両親の健康意識が幼少年期の発育発達に及ぼす影響(4,5,6年の追跡調査より)~~
~~○吉岡 英雄, 田上 憲三, 小西 達郎(京都女子大), 大木 保(京都大)~~
~~青木 安子(大阪・御幸森小), 岡崎 恒雄(和歌山・東田川中), 三井 敏郎(大阪東高)~~
11. 体育科教員の血圧について ー滋賀県の実態よりー
○日岡 昇(滋賀・朝桜中), 米田 幸雄(京都教育大)
12. スポーツにおける傷害について(第1報) ースポーツと骨折ー
○砥堀 雅信, 木村 静雄, 浅井 共栄, 松岡ヤス子, 熊沢美津子, 中山ふみ江,
町口 京子(神戸女子大)
13. 体力づくりに関する心拍数からみた運動強度と健康管理について
○荻野 稔, 長谷川ちゆ子(兵庫・西脇中)
14. 滋賀県下における給食センター方式の現状分析
○林 正, 伊吹 孫平(滋賀大・教育)
15. 陰電位磁気(健康器)負荷時における脳および肝臓血流について
○熊沢美津子, 木村 静雄, 砥堀 雅信, 松岡ヤス子, 浅井 共栄, 中山ふみ江,
町口 京子(神戸女子大)
日比野朗郎, 未延 渡, 北村 幸子, 松原 周信

特 別 講 演 (14:10~15:40)

こどもの発達と環境

神戸大学医学部教授 黒 丸 正 四 郎

シンポジウム (15:50~17:30)

テーマ「人間教育としての性教育」

1. スライドを使用した、小学校における性教育の実際

大阪市立加美北小学校 岡 田 潔
大阪教育大学 後 藤 英 二
松 岡 弘

2. 大学における性教育の方向を探る

— 学生の性教育体験と性に対する考え方をもとにして —

神戸大学教養部 天 野 郡 寿

富 士 貞 吉 先 生 の 御 死 去 に 際 し て

近畿学校保健学会名誉会員富士貞吉先生は、昭和52年2月18日肺腫瘍で86才の長寿を全うされ永眠されました。先生は大正2年京都帝国大学医科大学を卒業後、故戸田正三先生の下で、その当時としては最新の医学の領域である衛生学の研究に志ざし、京城医専教授、大阪高等医専教授として衛生学の教育と研究に情熱を傾けられました。その後、台湾総督府中央研究所熱帯衛生部長を経て昭和14年台北帝国大学医学部教授に就任され、専ら熱帯衛生の研究と熱帯衛生環境の改善に没頭されました。先生の此の間の功績は今日に至るもわが国熱帯衛生学の第一人者として公私共に認められています。戦後は大阪医科大学教授を経て、昭和27年3月大阪学芸大学（現大阪教育大学）教授に御就任後は学校保健の分野に深い関心を持たれ、過去30数年にわたる深い衛生学の学識と経験を傾けて将来教員を志望する学生を指導されました。この間、学校保健の低調なのをなげかれ、その重要性を常に教育界に訴えておられましたが、学校保健の研究を大学と教育現場とが共に手をたずさえ推進せんとされ、有志と共に近畿学校保健学会の設立に努力され、今日の学会の発展の基礎を築かれたのであります。

近畿学校保健学会では、先生は学校環境衛生の改善が児童生徒の健康の増進に重要な役割を果たすのみならず、学習効果をも高めるべきであることを強調され、この方面の研究にも力を入れられたのであります。大阪学芸大学御退官後も常盤短期大学で小児保健を係のような学生にユーモアのある授業を展開されるとともに、毎年の近畿学校保健学会総会にはよく出席され、若い人々と共に元気よく討議されたのであります。先生は保健学者、衛生学者らしく常に自らの健康には十分注意され、何時でも若々しくお元気な毎日を過されていたのであります。3年前より心不全にて時々病床に就かれるようになられました。しかし、お元気な時は学校保健の著述や講義を続けておられたのですが、本年ははじめより急に病状が悪化され、遂に不帰の世界へ旅立たれたのであります。

ここに先生の御冥福をお祈りして、追悼の言葉と致します。

合 掌

(大阪教育大学教授 上 林 久 雄)

近畿学校保健学会名誉会員 (昭和52年6月現在)

伊東祐一 岩田正俊 小沢忠治 片岡慶有 川畑愛義 竹村一
西田義文 長谷川等 三浦運一 宮田尚之

第24回 近畿学校保健学会評議員 (昭和52年6月現在)

滋賀県	植村良雄 本原貫一郎	白山倉田一夫	高柳田原恬典	谷口正	林正	宮田英子
京都府	有本武二 大原純吉 北村李軒 永井久紀 松井健三	池田英三 大山良徳 大桐山和夫 中本尊義 三宅信	泉沢馨一郎 奥正規 沢田芳三 西村卓三 八木保	今村要三 景山幸雄 瀬戸本絹 福山岡誠 山岡一	上田将子 金井秀雅 高島井正文 藤井岡雄 吉岡文雄	大石嘉雄 北岡秀雄 立川明 榎岡義明 米田幸雄
奈良県	今西昭雄 喜多村光彦 長田光稔 森本稔	上田光夫 佐藤良男 馬場春哲 吉岡哲	浦久保繁 橋重美 平井五兵衛 米本三治	緒方準一 出口庄佑 松田秀徳	唐沢友江 永井豊太郎 松田弘信	勝山正隆 中牟田正文 森村幸治
和歌山県	池端与美子 宇野修司 川口英雄 小谷諒夫 田端好次 福島篤二	櫛田さよ 内畑裕雄 川口宏輔 阪口大博 中藤原ツタ子	井辺八郎 笠松勇次 川崎武彦 島利清夫 西川清定 岡勇二	岩田弘敏 神前捨治 楠井胤胤 庄清正 根岸文子 山右二	井川口正 黒田吉雄 園田健夫 野田康夫	岩畑嘉樹 川口和恵 小出陽造 武田真太郎 広沢義治
大阪府	赤沢フミ 上延富久 進龍太郎 仲井正名 円山一郎	安達義明 上林久雄 桜井米次郎 原田龍夫 山本勝朗	安藤藤格 木下十郎 須藤勝見 藤井正男 安田慶二	飯沼剛克 湖崎内和 竹内千秋 藤岡佑	今井英夫 後藤新一 辻部一郎	宇野菊三郎 合田梅野 寺岡政弘 松岡弘
兵庫県	足立ひで子 江見弘正 小島深美 常瀬善三 野瀬哲人 南山保人	井大西正三 近藤道子 塚文子 塚利之 箱根龍雄 美崎教正 横尾能範	石冢井一 家治川豊 佐守信男 戸田嘉秋 橋本慎夫 森本澄夫 吉村惠江	和泉正人 村静彦 菅野和子 名倉久男 藤倉幸江 山本花九 渡下辺一	今出悦子 喜田正光 立村石正 長本典 細原広博 山田賢夫 和久賢夫	五十嵐裕子 百済昌一 田辺和子 丹羽正 室田明 山田光盛

第24回近畿学校保健学会演題申込み用紙

(裏面必読)

演 題 名		スライド使用 有 無	
発表者氏名, 所属 (連名で発表の場合は演者に○印)			
連 絡 先	〒	TEL	()
住 所			
氏 名			
発表要旨 (100字ぐらいに)			

申込用紙不足の場合は, これと同じ様式のものを用いて下さい。

き り と り 線

第24回近畿学校保健学会参加申込みについて

1. 学会は学校保健に関心のある方は誰でも参加できます。
2. 近畿学校保健学会は近畿地区6府県の輪番で毎年1回開催されます。
会員として入会(年会費 1,000円)されると, 引き続き「学会通信」をお送り致します。
3. 学会当日会場入口で, 会員の受付けを致しますが, 5月20日迄に会費¥1,000円(評議員¥ 1,500円)及び学会参加資料代¥ 500円前納の方には, 5月末日に学会プログラムをお送り致します。
4. 学会員で, 学会当日参加されず, 学会講演集のみをご希望される方は, お送り致しますので, 郵送料を含めて¥500円を前納して下さい。
5. 申込みは右記通信欄に必要事項をご記入のうえご送金下さい。

この欄は、加入者あての通信にお使いください。

通 信 欄	
第24回近畿学校保健学会参加申込書 (該当する項目の番号を○で囲んで下さい)	
◇6月10日(金)の学会に	
1. 参加する	2. 未定 3. 不参加
◇今後も引き続き会員として	
1. 希望する	2. 未定 3. 否
◇会費及び参加料等の納入	
1. 一般会員 ¥ 1,000	} 合計 ¥
2. 評 議 員 ¥ 1,500	
3. 学会参加資料代 ¥ 500	
4. 講演集郵送料共 ¥ 500	
会員氏名	
住所(〒)	
所属(具体的に)	
(府・県)	

1. 口演内容は学校保健の立場に立脚し、具体的な資料にもとずいた研究発表を希望します。
(なお、口演内容につきましては、本年度学会テーマ「人間教育としての性教育」にこだわる必要はございませんので、自由にテーマを選んで下さい)
2. 演者は近畿地区に在住または勤務する方に限ります。連名で発表の共同研究者は近畿地区外の方でもかまいません。発表者は原則として会費を前納して下さい。
3. 演題申込みはこの用紙（または同様式）に必要事項を記入し、昭和52年4月25日（必着）までに学会事務局あてお送り下さい。折返し講演集作成用の所定の原稿用紙をお送りします。5月20日までに講演内容の抄録（表題、図、表を含めて約1400字）を黒インク書きで提出して下さい。オフセット印刷にいたします。
4. 発表時間は申込み演題数によって決定いたしますが、討論を含めて1題10分程度を予定しています。

き り と り 線

各票の※印欄は、払込人において記載してください。

払 込 通 知 票									
※ 口座番号	神戸			十	万	千	百	十	番
						3	9	7	5
※ 加入者名	第24回近畿学校保健学会								
金 額	※	億	千	百	十	万	千	百	十
※ 住所氏名	(郵便番号)								
備 考					受付局日附印				

(郵 政 省)

文字は正確明りように、数字はアラビア数字を使ってお書きください。

記載事項を訂正した場合は、その箇所に証明してください。
各票の記載事項にまちがいのないことを確かめください。

払 込 票									
※ 口座番号	神戸			十	万	千	百	十	番
						3	9	7	5
※ 加入者名	第24回近畿学校保健学会								
金 額	※	億	千	百	十	万	千	百	十
※ 住所氏名									
料 金	払込み 円		特 殊 円		受付局日附印				
備 考									

(郵 政 省)